

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



17章 総合問題 17

問題

【1】

A.

全訳

我々が動物でなくなり人間になったのは、学習によってであった。それが第1段階であった。それから、はるか昔の暖かいジャングルで、素晴らしい人間の頭脳が徐々に形成され、それとともに、さらに2つの人間独自の能力——たとえ世界が廃墟になろうとも再び建て直し得る道具ともいえる、素晴らしく巧みな言語と、器用で融通のきく手が徐々に形成された。

B.

全訳

人間を含め、地球上のすべての生物は、空気や養分、それに水を始めとする、生きていく上で必要不可欠なものを供給してくれる環境の中で進化してきた。私たちは、この生命維持システムをほとんど認識せずに生活し、今、その働きの仕組みと力学を理解し始めたばかりである。④数十年前に始まった宇宙探検によって、我が惑星の生物圏の特異性が強調され、閉ざされた生態系の科学的研究が急速に進んだ。これは、もし私たちが地球からの物資の供給に依存せずに、宇宙で暮らすようになるつもりなら、必要となる研究である。

生物圏は、地表において生物が生息する薄い層と定義されてきた。もっと一般的に言うと、生物圏は安定し、複雑で、適応力があり、進化している生活環境であると考えられるだろう。生物圏は物質の点においては閉鎖的であり、エネルギーと情報の点では開放的である。エネルギーの点では、地球の生物圏は開放されており、主として降り注がれる太陽の放射からエネルギーを得ているが、その太陽の放射は、地球を温め、そしてほとんどの生命体にエネルギーを供給する植物によって、高エネルギー粒子という形で捉えられる。⑥情報の点でも、地球の生物圏は宇宙の他の天体との交信に対して開放的である——このことは、惑星探査機ボイジャー号から電波信号を受信し、また何百万マイルもの距離を越えて送信できたことによって、劇的に示されたのであった。

少数の海中探検家が、生物圏の不可欠な構成要素である酸素を携行して、実験していたのだが、閉ざされた生態系の本格的な調査は、宇宙時代の到来によって開始された。⑦簡単な計算で明らかになることであるが、人間が宇宙空間で長時間本当の意味で生活し、ゆくゆくは地球を離れたところにさらに生活範囲を広げるためには、生命を維持してくれるものを再生することが、絶対必要になるだろう。1人の人間の命を1日維持するためには、平均、1ポンドと4分の1の食料、2ポンドの酸素、4ポンドの飲料水の計7ポンド以上が必要である。もしこれに洗面、料理、洗濯などに必要な生活用水を加えると、この必要な重量にさらにもう30ポンドが増える。その上、閉ざされた生命維持システムは、6ポンド以上の固体・液体の廃棄物と、宇宙に住む人間が呼吸で吐き出す2ポンドの二酸化炭素を毎日、処理できなくてはならない。これが意味することは明らかである。つまり、人間が宇宙に長期間住み、

さらに永住するためには、人間の生命維持にかかわる空気や食料、水を再生する必要があるということである。

【2】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①, ②を参照。
 (2) way [in]
 (3) the predominant language (in the world)
別解 the most widely spoken language / the international [common] language
 (4) 独立後, その社会のエリートと普通の人々とを区別した。(26 字)
 (5) b
 (6) 英語を話さない人々 (9 字) / 英語がわからない人々 (10 字)

解説

- (1) ① attempt to … の attempt と to の間に in varying degrees と with varying success が挿入された形であることを見抜く。挿入句はともに前置詞句で副詞句である。この場合逆説的に係っている。replace A with B 「AをBと取り替える」についても、文脈に合うように訳を工夫すること。

② まず全体が 'A and [M] B' 型であることを見抜く。

Chinese is rapidly displacing ~
 S V₁ (= A)
 and, given the role of ~, has become the language ~
 M V₂ (= B)

given the role of ~ は条件を表す分詞構文でV₂にかかる。given ~ は「~と仮定すると；~を考慮に入れると」の意。provide [providing] ~ ; granted ~ ; suppose [supposing] ~ も押さえておきたい。the language in which ~ の関係詞 which の先行詞は the language。much of that area's international business is transacted in the language と考える。in は「~を用いて」の意味。

- (2) この文章全体のテーマ「国力が優勢になれば、その国の言語が広く用いられるようになる」ということを念頭に置く。設問箇所は、直前の文を具体的に説明している部分だと考える。

直前の文：西洋の力の衰退 → 西洋諸国言語の衰退 [ℓ. 21 ~ 23]

設問箇所：中国文明が西欧文明より支配的 (= 西洋の力の衰退)

→ 北京語 (= 中国語) の優越と英語の衰退 (= 西洋の言語の衰退)

よって, give (㉔) に対応する語を直前の文で探す。すると erode ≡ give (㉔) ということができる。give way [in] to ~ で「~に屈する」の意。

- (3) この設問でも文章全体のテーマ「国力が優勢になれば、その国の言語が広く用いられるようになる」ということを念頭に置く。

(英国・西欧文明の衰退) → (支配的な英語の衰退)

(支配的な国, 文明の衰退) → (支配的な言語の衰退)

この論の展開から、おのずと「世界で最も普及している言語」くらの意味だと類推する。自分で英作できなければ、この種の説明文、論説文は敷衍部分が多いので、その部分を探すとよい。

- (4) did this が何を指しているかを考える。did は代動詞、this は指示語だから直前を参照して、did this = distinguish(ed) themselves (= the elites of these societies) from the common people of their societies のことだと読み取る。the common people (普通〔一般〕の人々) の common の意味に注意。
- (5) two opposing trends に着目する。つまり以下の部分でこの2つの相対立する潮流に関しての叙述が成されると考える。空所①を含む文に続く1文は、On the other hand で始まっているので、ここの部分は on the one hand A , on the other hand B 「Aである一方、他方B」で表現されているのではないかということに気付く。この表現は対比されているAとBが明確な場合は、前者の on the one hand は省略されることが多い。ちなみに本文のような学術的な文章では、その両方が表現されることの方が多い。
- (6) 下線部②は直前の between A and B の表現の一部であることに気付く。

そのことから、

A = the minority at the top who know English

B = the many millions (挿入) who do not

の対応関係がわかるはず。よって、who do not = who do not know English.

who の先行詞は the many millions であることから、「英語を話さない大多数の人々」を意味することになるが、字数にそれほど余裕があるわけではないので肝心の部分以外は省いて解答する。

全訳

歴史を通じて、世界における言語の分布は、世界における国力の分布を反映してきた。最も幅広く話される言語——英語、北京語、スペイン語、フランス語、アラビア語、ロシア語——は、自分たちの言語を他民族が使用することを積極的に推進した帝国の言語であるか、もしくは過去にそのような位置づけの言語であった。国力の分布の変化は、言語の使用に変化をもたらす。2世紀にわたるイギリスおよびアメリカの植民地、商業、工業、科学、財政上の国力は、高等教育、政治、貿易、技術においてかなりの遺産を世界中に残した。イギリスおよびフランスは、自国の言語を植民地において使用することを要求した。しかし独立に引き続き、①かつての植民地のほとんどは、程度も成功の度合いもさまざまであるが、帝国の言語を土着の言語と置き換えようとした。ソ連の全盛期においてはロシア語こそが、プラハからハノイまでにおける共通語であった。ロシアの権力衰退に付随して、第二言語としてのロシア語使用の減少が並行して起こった。国力が増大すると、他の文化形態にも見られる通り、母語話者によるその言語の肯定や、外国人による言語学習の動機づけなどが生じる。ベルリンの壁の崩壊直後、統合ドイツが新たな巨大国家となったように思われた高揚の時期、英語が堪能なドイツ人が国際会議でドイツ語を用いるという傾向が目についた。日本の経済力は非日本人が日本語を勉強する刺激となっており、また中国の経済発展も中国語において同様のブームを作り出しつつある。②中国語は、香港では支配的言語として急速に英語に

取って代わろうとしており、東南アジアにおける華僑の役割を考えれば、その地域の国際的な商取引の大部分を行う言語になっている。西洋の権力が他文明の権力と比較して次第に衰えていくにつれ、英語や他の西洋諸言語が他の社会で、また社会間の意思疎通のために用いられることも、徐々に少なくなっていくだろう。もし遠い将来のある時点で中国が、世界の支配的文明として西洋に取って代わったら、英語は世界共通語の座を北京語に譲るであろう。

かつての植民地が独立に向けて動き、そして独立するにつれ、土着の言語の促進ないし使用、そして宗主国の言語の使用禁止は、愛国的なエリートたちが西洋の植民地主義者から自分たちを区別し、主体性を定義するための1つの方法であった。だが独立に引き続き、そうした国々のエリートたちは、国内の一般の人々と自分たちとを区別する必要があった。英語やフランス語、あるいは他の西洋の言語に堪能なことが、その区別を行った。結果として、非西洋諸国のエリートたちは、自国の人々よりも、西洋人やエリート同士の方が意思疎通がうまくいくことが多い（これは西洋でも17世紀や18世紀、さまざまな国の貴族らが、フランス語で互いに意思疎通が容易にできたものの、自国の俗語は話せなかったのと、類似した状況だ）。非西洋諸国では2つの相反する潮流が進行中であるように見受けられる。一方では、資本と顧客を得るための世界規模の競争において、卒業生が有効な役割を演じられるようにするために、英語が大学レベルにおいて使用されることがますます多くなっている。もう一方では、社会的、政治的圧力により、土着の言語がより一般的に使用されつつある。例えば、北アフリカにおいてはアラビア語がフランス語に、パキスタンでは政府と教育のための言語としてウルドゥー語が英語に、またインドでは土着の言語によるメディアが英語のメディアに、それぞれ取って代わりつつある。こうした変化は1948年、インドの教育委員会によって予見された。その時彼らは、英語の使用は…国民を2つの国家に分断する、すなわち統治する少数と統治される多数になり、一方が他方の言語を話すことができなくなり、その結果お互いに意思疎通ができなくなる、と主張した。40年後、英語がエリートの言語として現存していることによりこの予言は立証され、成人参政権を基盤とした機能中の民主制における不自然な状況を作り出した…英語を話すインドと、政治に対して目覚めたインドはどんどんかけ離れていっており、英語を知っている頂点にいる少数の人々と、選挙権という武器を持つが英語を知らない、何百万もの人たちとの間の緊張を刺激している。非西洋諸国が民主的諸制度を確立し、またそうした国々の国民がもっと広範囲に政府活動に参加すれば、それだけ西洋諸国の言語の使用も減少し、土着の諸言語がより優勢になるのである。

注

- ℓ. 1 ◇ *distribution n.* 「分布」 *cf. distribute vt.*
◇ *reflect vt.* 「反映する」
- ℓ. 4 ◇ *promote vt.* 「促進する；推進する」
- ℓ. 6 ◇ *commercial adj.* 「商業上の」
◇ *industrial adj.* 「産業の」 *cf. industry n.* 「産業」
◇ *legacy n.* 「遺産；受け継がれたもの」
- ℓ. 10 ◇ *heyday n.* 「(若さ・元気・繁栄などの) 盛り；絶頂；最盛期」
- ℓ. 13 ◇ *assertiveness n.*
cf. assertive adj. 「断定的な」 *cf. assert vt.*

- ℓ. 14 ◇ incentive *n.* 「刺激；動機」
- ℓ. 15 ◇ after the Berlin Wall ~ and it seemed … behemoth までが接続詞 after が導く副詞節である。and の前で切らないこと。
- ℓ. 27 ◇ indigenous *adj.* 「固有の；原産の」 (= native)
 ◇ suppression *n.* 「鎮圧；抑制」 *cf.* suppress *vt.*
- ℓ. 28 ◇ distinguish A from B 「AをBと区別する；見分ける」
- ℓ. 34 ◇ aristocrat *n.* 「貴族；上流階級の人」
- ℓ. 44 ◇ mutually *adv.* 「相互に」 *cf.* mutual *adj.*
 ◇ uncomprehend *vt.* ⇔ comprehend *vt.* *cf.* comprehension *n.*
- ℓ. 45 ◇ persistence *n.* 「永続」 *cf.* persist *vi.*
- ℓ. 46 ◇ suffrage *n.* 「選挙権」
- ℓ. 47 ◇ diverge *vi.* 「分かれる」
- ℓ. 49 ◇ extent *n.* 「程度」
- ℓ. 51 ◇ prevalent *adj.* 「流布している；普及している」 *cf.* prevail *vi.*

【3】

ポイント

「～と見ている」の表現には工夫が必要だが、混み入った文構造ではない。訳し漏れがないよう、丁寧に取り組んでほしい。「…する人は多い」や「…するのに役立つ」という表現はよく使うので、ぜひマスターしよう。

解答

Many economists suggest that Japan should tie up with software developers in India. This is because they believe that Indians, who are used to doing business with the West, will help Japanese companies stay globally competitive.

別解

There are quite a few economic experts who suggest that Japan tie up with Indian software development companies, because they consider that the Indians' familiarity with trade with Europeans and Americans will be able to help Japanese businesses stay successful in world markets.

解説

「…している経済専門家は多い」は、「多くの経済専門家が…している」と考えて「数量の形容詞＋名詞」を文頭に置くと簡潔に表現できる。There are many economists who …のよう
 に訳してもよい。「…するよう提案する」は suggest [propose] that S (should) V …
 とする。助動詞 should を使うのは主としてイギリスの用法、原形にするのが主としてア
 メリカの用法である。「日本がインドのソフト開発業者とタイアップするよう（にということ）」
 の部分は that が導く名詞節で表すことになる。「これは…だからである」は前文に続けて、
 because …で表すか、This is because S + V … としよう。because 節の主語は、前文の「経
 済専門家」 = they である。「欧米との商売に慣れているので」という部分は、関係代名詞
 の非制限用法を使って「インド人」の後ろに挿入して、「理由」の意を表す他、so ~ that …

の構文で表すこともできる。

- 「経済の専門家」economists；economic(s) experts [analysts；specialists]
- 「～は多い」前述のように「多くの～が（…している）」と考えると，many ～；quite a few ～と表現できる。
- 「ソフト開発業者」software developers；software development companies；software houses。なお soft だけでは「ソフトウェア」の意味にはならないので注意すること。
- 「日本がインドのソフト開発業者とタイアップするよう（にということ）」は名詞節，「欧米と商売をすること」は名詞句で表すのがよい。
- 「～とタイアップする」は「～と提携する」ということ。tie up with ～がよい。「～と協力する」と読み換えて cooperate with ～としてもよい。やや硬い表現だが，go [enter] into partnership with ～（～と協力〔提携〕する）としてもよい。
- 「欧米」the West；Europe and America がよい。Westerners；Europeans and Americans（欧米の人々）としてもよい。
- 「…することに慣れている」be used to …ing。この to は前置詞なので，後ろは不定詞ではなく動名詞などの名詞相当句がくる。
Ex. I was not *used to* catching buses；I usually drove everywhere。
（私はバスに乗ることに慣れていなかった。普通どこへでも車で行ったからだ。）
または，「欧米との取引に精通している」と考えると be familiar with ～を用いてもよい。「別解」では「～に精通していること（が…に役立つ）」と考えると，その名詞形である familiarity を用いた。
- 「～と商売をする」do business with ～がよい。やや硬いが deal [trade] with ～（～と取引する）もよい。
- 「日本企業」Japanese companies；Japanese businesses。enterprises も「企業」の意。
- 「グローバルな競争力を保つ」maintain one's global competitiveness が直訳。「解答」では「日本企業が世界的に競争力のある状態のままである」とした。stay + 形容詞で「～のままである」の意になる。
Ex. I can't stay awake any longer.（もう起きていられないよ。）
近い表現としては continue to succeed in the world（世界の中で成功し続ける）のようにも書けるだろう。
- 「～と見ている」は「～だと判断して〔考えて；信じて〕いる」ということ。問題文では一般的な事実を述べているから，現在時制がよい。

【4】

解答

- (1) pleasure (2) enough (3) bother (4) through
- (5) shame (6) idea (7) rather (8) afraid [sorry]
- (9) about (10) stand [bear；endure] (11) on
- (12) bad (13) up

解説

- (1) A: 「宿題を手伝って下さいますか。」
 B: 「もちろん。よろしいですとも。」
 ○ with pleasure ① 「喜んで」
 ② 「よろしいですとも」《喜んで承知するという返事に用いる》
- (2) A: 「コーヒーのおかわりはいかがですか。」
 B: 「いいえ、けっこうです。十分いただきました。」
 ○ Would you …? 《勧誘・依頼》「…しませんか」
 ○ enough (名詞)
 ※ enough は、特定の目的・場合にとって「十分」という意味であって、「豊富」という意味ではない点に注意。
- (3) A: 「私にあなたの上司と話をしてそれを説明させて下さい。」
 B: 「それには及びません。そんなに重要なことはありませんから。」
 ○ Don't bother 「それには及びません」
 cf. bother to … […ing] ((否定文で) わざわざ…する)
 ○ that (副詞) 「そんなに」 ≒ so
- (4) A: 「私はたった今仕事を終わりました。あなたは終わりましたか。」
 B: 「はい、終わりました。」
 ○ be through with ~ 「～を終えて」
- (5) A: 「申し訳ありませんが、お客様がお帰りになった少し後に別の方があのシャツを買ってしまいました。」
 B: 「残念なことだ！ 買える時に買っておくんだった。」
 ○ What a shame! 「残念なことだ」
 ○ should have 過去分詞 「…すべきだった (がしなかった)」 [実現しなかった過去]
- (6) A: 「天気はどのようになりますかね。」
 B: 「わかりません。」
 ○ have no idea 「わかりません」 = do not know
- (7) A: 「私たちと一緒に買物に行きたいですか。」
 B: 「そうですね、どちらかと言えば行きたくありません。とても疲れているのです。」
 ○ I'd rather not = I would rather not
 ○ would rather … 「むしろ…したい」
 ① 動詞の原形を伴って
 I *would rather go than stay.* (とどまるよりも行きたい。)
 ② that 節 (仮定法) を伴って ※通例 that は省略。
 We *would rather* (that) you *went.* (君に行ってもらいたいものだ。)
- (8) A: 「もう少しいたらいかがですか。」
 B: 「残念ながら無理のようです。9時の電車に乗らなければなりません。」
 ○ Would you …? → (2) の解説参照。
 ○ I'm afraid … (表現を和らげて) 「残念ながら…のようだ」

※ I'm afraid をつけないと、ぶしつけな言い方になる。

○ I'm sorry (that) 節「残念ながら…で」

(9) A: 「後でどこかで会いましょうよ。」

B: 「角の本屋はどうだい？」

○ How about …? 「… (するの) はいかがですか」 = What about …?

(10) A: 「どうしてロックが好きじゃないのですか。」

B: 「あの騒音に我慢できないんだ。」

○ stand [bear; endure] 「(通例否定・疑問文で) ～を我慢する」 = put up with ～

○ noise 「(聞いて不快な) 騒音」

(11) A: 「降参するよ。」

B: 「頑張れよ。そんなに難しくないぞ。」

○ Come on. 「(督促, 挑戦, 懇願などを表して) 頑張れ」

(12) A: 「従兄弟が昨日事故で大怪我をしたんだ。」

B: 「お気の毒に。」

○ That's too bad. ① 「お気の毒に」 ② 「(そっけなく早口で発音して) いい気味だ」

(13) A: 「明日家にいましょうか。」

B: 「その必要はないよ。君に任せるよ。」

○ be up to ～ ① 「～ (= 悪事など) をしようとしている」 ② 「～の責任である」

③ 「～の考えで決まる」

【5】

解答

(1) ② no decision having made → no decision having *been* made

(2) ⑥ as a young kid → as *that of* a young kid

(3) ④ or at least limiting → or at least *to limit*

(4) ② feel sorry → feel sorry *for*

(5) ⑤ differ from → different from [differ from → which [that] differ from]

解説

(1) 理由を表す分詞構文。no decision が分詞の意味上の主語なので受動態にしなければならない。

○③, ④ decide to … 「…することに決める」 × decide …ing

⇒ 「8時まで決定が下されなかったため、委員会は来年度の会長を決めるためにもう1度会合を開くことに決めた。」

(2) 比較しているのは behavior であるから, that of (= the behavior of) が必要。

○① in spite of ～ 「～にもかかわらず」

⇒ 「年齢にもかかわらず、パーティーでの彼の振る舞いは小さな子供のものであった。」

(3) stop limiting だと「科学実験で殺される動物の数を制限することをやめる」という意味になり、文脈に合わない。an effort と同格関係にある不定詞にすればよい。

① voice → ここでは「意見」という意味で可算名詞。

② in an effort to … 「…する努力において」 → 「…しようとして」

○ in an effort

{	to stop killing animals
	or
	(at least) to limit

→ 動物を殺すことをやめようとして、または少なくとも～を制限しようとして

○ stop …ing 「…することをやめる」

⑥ killed は animals を修飾する過去分詞。

⇒ 「最近、動物の殺戮を止めようとして、あるいは少なくとも科学的研究のために殺される動物の数を減らそうとして、多くの意見が挙げられている。」

(4) ○ feel sorry for ～ 「～をすまなく思う」

①, ② What some scientists feel sorry for → 主語になる名詞節。

③, ④ the application of A to B 「A を B に応用すること」

④～⑥ the creation and ultimate use of weapons of war (戦争兵器の創造と最終的な使用 → 戦争兵器を作り、最終的には使用すること)

⇒ 「戦争兵器を作り、最終的にはそれを使用することに自分の学説が利用されることを遺憾に思う科学者もいる。」

(5) all manners and customs は view の目的語になる部分で、後にこれを修飾する形容詞句 different from ～あるいは関係詞節 which [that] differ from ～が続けば文が成立する。

○ perhaps 「ひょっとしたら」

① It = ③ to view ～

③ with horror and disgust 「恐れと嫌悪を持って」

⑥ be used to ～ 「～に慣れている」

目的格なので関係代名詞が省略されているが、あえて関係代名詞を補うならば those *which* we are used to.

⇒ 「自分たちが慣れ親しんだものとは異なる礼儀や習慣を恐れと嫌悪を持って見るのは、もしかしたら人間の持って生まれた衝動かもしれない。」

18章 総合問題18

問題

【1】

A.

全訳

努力は苦しいものであり、しかも非常に苦しい場合もあるだろう。しかし、努力を重ねていると、努力はそれが結果としてもたらすものと同様、そして恐らくそれ以上に貴重であることを実感する。というのは、努力のおかげで我々は自分自身の中からそこにあったすべてのものだけでなく、そこにあった以上のものを引き出しているからである。つまり、我々は自分を自分以上に高めたことになる。

B.

全訳

①これは、英語という言語が他の慣習が変化しないでいることがないのと同様に変化しないでいることなどはないということを我々に再び気づかせてくれる、珍しく貴重な話である。その理由は完全に理解されることはないが、すべての言語は一定の期間に変化する。というよりはむしろ、言葉は実のところダンスやピアノ演奏と同様に一種の人間の活動であり——そもそも言語は本質的には実体のあるものではないので——次の世代は、言語という点において、前の世代とは若干異なった行動様式をとると言った方が、より正確である。10代の頃、若者は、自分の感覚ではあまりに堅苦しいと思える年輩者たちの言葉遣いや発音に我慢ならず、最新の俗語を用いることによって、自分がいかに現代的であるかを示したがる。しかし、年月が経つにつれて、彼の用いる俗語の中には標準的な語法となるものもあり、いずれにせよ彼は、徐々に、若い頃ほど新しい言葉を受け入れなくなる。②その結果、彼が40代に達するまでには、おそらく、その時教会の説教や法廷で真面目くさって用いられている言葉遣いや発音の中には、かつて自分の親たちによって顔をしかめられたものもあったことなどまったく気づかずに、若い世代たちのぞんざいな言葉遣いを嘆くようになるであろう。

【2】

解答

- (1) 女性が離婚や夫の死によって財産を得るから。
- (2) a their b husbands' c death (3) 夫
- (4) ④ d ① a
- (5) 少なくとも二人の女性と離婚して、感謝料を払っていること (27字)
- (6) 「全訳」の下線部①を参照。
- (7) a into b habit (8) 浮気相手の男
- (9) 「全訳」の下線部②を参照。
- (10) クラブやバーの中で聞いた作り話

解説

- (1) Divorce has become a lucrative process, ~および The husband's death also brings satisfactory rewards ~が根拠。
 ○ land = a country
- (2) 「夫の死を待つ期間」。
 ○ their husbands' death の ' (apostrophe) の位置に注意。
- (3) the poor devil は「哀れなやつ」の意味でここでは「夫」のこと。
 ○ devil は「(修飾語の後で) ~な人 [やつ]」の意味で用いる。
 Ex. A luck devil! (運のいい奴め)
 e.g. the printer's devil (活版所の小僧)
- (4) ① アメリカの若い男性の立場から見ているから *terrifying* pattern ということになる。
 ○ terrify = cause to feel extreme fear
 ② ○ turn *the tables* on = gain a position of superiority after having been defeated or in a position of inferiority (形勢を逆転させる) である。
 ○ b turn the key 「錠に鍵を差し込んで 回す」
 ○ c turn the corner 「危機を切り抜ける」
 ○ d turn one's coat 「変節する」
- (5) 「少なくとも二人の先妻を給料支払い名簿に載せている」という意味。
 離婚は女性にとって、a lucrative process になっていると本文にあるように、大抵の場合男性の方が生活費などを送らなくてはならない。この生活費が給料 (pay) である。
 ○ a large proportion of ~ 「~の大部分」
 ○ them は young men を指す。
 ○ ex- [名詞の前に付けて] 「前の」
 ○ have ~ on one's payroll 「~を自分の給与支払名簿に載せている」 → 「~ (の従業員) を雇っている」
 ○ payroll = a list of a company's employees and the amount of money they are to be paid
- (6) ○ manner = the way that something is done
 ○ to which they are accustomed = which they are accustomed to ~
 ○ 1つ目の they は these ladies を指す。
 ○ 2つ目の which は、前文の内容を受けている。
- (7) take to = begin or fall into the habit of 「~に熱中する；(習慣的に) ~をし始める」
 この to は前置詞。他に「~へと逃げていく；~を好きになる」の意もある。
- (8) a dog は a worthless evil man を指す。
 ここは本文の内容から「浮気相手の男」を指すことがわかる。
- (9) 妻が cunning, deceitful and lecherous で、夫の方は too good a man という布陣では、夫にとっては事態が暗たんとしている。
 ○ things 「事態」
 ○ black = without hope ; very depressing

○ Will the poor man ever find out? で find out の目的語は some sort of jiggery-pokery である。

○ ever = at any time

(10) 第2段落の最後にあるように、中年の男たちはいろいろな話をしてお互いに慰めあっている。第3段落に述べられている、妻に対して逆転勝ちを収める夫のことも御伽噺なのである。

○ fantasy [fæntəsi] = the act of imagining things; a person's imagination

全訳

アメリカは、女性が幸運をつかむ機会が多い国である。すでに彼女たちは国の富の85パーセントを所有している。まもなくそのすべてを所有するであろう。離婚は儲かる手段で、簡単に調停することもできるし、またあっさり忘れることもできる。しかも野心を持っている女性は好きなだけ離婚を繰り返し、それで儲けた賞金を元手に天文学的な数字にまでその賞金を増やしていくことができるのだ。夫の死もまた満足のいく報酬をもたらしてくれる。そこでこの方法に頼る方が好きな女性もいる。彼女たちは待つ期間が不当に長引くことはないことを知っている。というのは重労働と過度の緊張がやがて哀れな亭主を確実に捕らえ、夫は片手に一瓶のベンゼドリンを、もう一方の手に一包みの精神安定剤を持ってデスクに向かったまま死ぬであろうから。

いつの時代でも、次の世代の若いアメリカの男性はこのような離婚と死の恐ろしい型に少しもひるまない。離婚率が高くなればなるほど彼らは一層結婚に熱心になるのである。若者たちは思春期の年齢にもなっていないうちに、まるでねずみのように結婚する。そして36歳になる頃には少なくとも2人の先妻を雇っているのが大部分である。①こういう女性たちにとって慣れた方法で彼女らを養うために、男たちは奴隷のように働かなくてはならない。そしてもちろんこれこそまさに男たちの実態である。しかしついに、思っていたよりも早く中年に達すると、幻滅感と恐怖感が彼らの心の中に徐々に忍び込んでくる。そして夕刻ともなると彼らはクラブやバーで何人か集まってウィスキーを飲み、錠剤を呑み込みいろいろな話をしてお互いに慰め合おうとすることになるのである。

こういう時の話の基本的なテーマはいつも同じである。いつも主要な人物が3人——夫と妻と下劣な男——が登場する。夫は誠実で、人に後ろ指をさされることのない生活をしていて、よく働く。妻は狡猾で、不誠実で、みだらで、浮気相手と必ず何か内密の行為をする。夫はあまりにも善良で妻が悪事を働いていることを疑うこともできない。①事態は夫にとって暗たんとしたものに見える。哀れな男は妻の不貞を見つけ出すのだろうか。これから先死ぬまで妻を寝取られたままでいなくてはならないのだろうか。そうなのだ。だが待てよ！突然、素晴らしい策略を使って夫は怪物のような妻に対して完全に形勢を逆転させるのである。女の方はびっくり仰天、茫然自失、面目を失い、敗北するのである。カウンターでその話を聞いていた男たちはそっと微笑し、その空想的な噺からささやかな慰めを得るのである。

注

ℓ. 1 ◇ they は women を指す。

ℓ. 2 ◇ wealth = a large amount of money, property, etc. that a person owns

◇ it は the wealth of the nation を指す。

- ◇ divorce [dɪˈvɔːrs] 「離婚」
- ℓ. 3 ◇ lucrative [luːkrətɪv] = producing a large amount of money ; making a large profit
 - ◇ , simple to arrange and easy to forget 《準補語》
 - arrange の目的語は divorce (離婚) なので, この文脈では「調停する」と訳出する。
 - ◇ females = women
 - ◇ it は divorce を指す。
- ℓ. 4 ◇ as often as … please 「好きなだけ」
 - ◇ parlay one's winnings 「儲けた金を次の賭に賭ける」
 - parlay [pɑːrleɪ] = turn initial stakes or winnings from a previous bet into (a greater amount) by gambling
 - winning = gaining, resulting in, or relating to victory in a contest or competition
※ここでは慰謝料のこと。
 - ◇ to … 「結果」
 - ◇ astronomical = (of an amount) extremely large
 - ◇ figure 「数字」 → 「額」
- ℓ. 5 ◇ reward [rɪˈwɔːrd] = C an amount of money that is offered to somebody
 - ◇ this method は the husband's death を指す。
- ℓ. 6 ◇ unduly [ʌnd(j)úːli] = more than you think is reasonable or necessary ; excessively
 - ◇ protracted = lasting longer than expected or longer than usual ; prolonged
cf. protract = prolong
 - ◇ , for … 「理由の付け加え」 接続詞
 - ◇ overwork 「過重労働 ; 酷使 ; 超過勤務」
- ℓ. 7 ◇ hypertension [hàɪpərténʃən]
 - ① a state of great psychological stress (過度の緊張)
 - ② abnormally high blood pressure (高血圧)
 - ※ここでは2つの意味をかけている。
 - ◇ be bound to … = be certain or likely to …
 - ◇ before long = soon
 - ◇ at one's desk 「デスクに向かって」
 - ◇ with = having
- ℓ. 8 ◇ a bottle of ~ 「一瓶の～」 ※ 「～の瓶」は誤訳。
 - ◇ benzedrine [bénzədriːn] = Benzedrine 「ベンゼドリン (アンフェタミン (中枢神経興奮薬) の商標名)」
 - ◇ a packet of ~ 「一包みの～」 ※ 「～の包み」は誤訳。
 - ◇ tranquilizer [træŋkwəlaɪzə] 「精神安定剤」
cf. tranquil [træŋkwɪl] = calm ; serene
 - ◇ in the other (hand)
- ℓ. 9 ◇ succeeding generations 「次の世代の者たち」
 - succeeding = following

- ◇ not ~ in the slightest = not ~ at all
- ◇ deter [dɪtəː] = discourage someone from doing something by instilling doubt or fear of the consequence; make somebody decide not to do something or continue doing something, especially making them understand the difficulties and unpleasant results of their actions
- ℓ. 10 ◇ the + 比較級~, the + 比較級…「~すればするほど, その分だけ…」
the は副詞。
- ℓ. 11 ◇ like mice 「ねずみのように」
○ mice < mouse
「ねずみ算」の語があるほどねずみの繁殖力は旺盛なので, 例えとして使われている。
通常, ネコが追いかけるのが mouse で, 犬が追いかけるのが rat とされている。
- ℓ. 12 ◇ puberty [pjúːbərti] 「思春期」
◇ by the time S + V 「SがVするまでには」
- ℓ. 15 ◇ premature = occurring or done before the usual or proper time; too early
◇ a sense of disillusionment 「幻惑感」
○ disillusionment = disappointment resulting from the discovery that something is not as good as one believed it to be
- ℓ. 16 ◇ creep = (of a thing) move very slowly and inexorably (容赦なく)
- ℓ. 17 ◇ huddle = crowd together; gather closely together, usually because of cold or fear
◇ club = nightclub (キャバレーなど)
- ℓ. 18 ◇ swallow their pills 「錠剤を飲み込む」
○ この文脈の pills は ℓ. 8 の benzedrines や tranquillizers のことであるから, 鎮静剤を指す。
◇ comfort [kʌmfərt] = make somebody who is worried or unhappy feel better by being kind and sympathetic toward them
- ℓ. 19 ◇ theme [θi:m] = the subject or main idea in a talk
◇ character = a person or an animal in a book, play or movie
- ℓ. 21 ◇ cunning [kʌnɪŋ] = (disapproving) able to get what you want in a clever way, especially by tricking or cheating somebody; crafty wily [wáli]
◇ deceitful = deceiving or misleading others
◇ lecherous [létʃərəs] = having or showing excessive or offensive sexual desire
◇ be up to = be doing something, especially bad
- ℓ. 22 ◇ jiggery-pokery [dʒɪgəpókəri] = deceitful or dishonest behavior; hanky-panky
- ℓ. 23 ◇ suspect = believe or feel that someone is guilty of an illegal, dishonest, or unpleasant act, without certain proof
- ℓ. 24 ◇ cuckold [kʌklɪd] = 《dated》 the husband of an adulteress, often regarded as an object of derision (姦婦の夫)
◇ Suddenly, … 文頭に来て, コンマがある場合, 文修飾副詞と考えるのが原則。
Ex. Suddenly, he stopped the car. (何を思ったか, 車を停めた。)

→文修飾。急ブレーキとは限らない。ゆっくりでもよい。

cf. He stopped the car *suddenly*. (急ブレーキをかけて突然車を停めた。)

stopped を修飾。急ブレーキをかけたのである。

ℓ. 25 ◇ manoeuvre [mənuːvə] = maneuver ; a carefully planned scheme or action especially one involving deception

◇ monstrous 「怪物のような；言語道断な」

◇ spouse [spaʊs] = a husband or wife, considered in relation to their partner(配偶者)

ℓ. 26 ◇ flabbergast [flæbɜːgæst] 「面食らわせる；呆然とさせる」

Ex. I was *flabbergasted*. (私はあっけにとられた。)

◇ stupefy [st(j)uːpəfaɪ] = make someone unable to think or feel properly (ぼんやりさせる；馬鹿のようにする)

e.g. be *stupefied* with grief (不幸にあって茫然としている)

be *stupefied* with drink (酒に酔って馬鹿になる)

◇ humiliate = make somebody feel ashamed or stupid and lose the respect of other people

◇ defeat = overcome or beat

【3】

ポイント

構文上のテーマは特に設けていない。これまでに学んできたことを活かして取り組んでほしい。いずれも日本語の表現をそのまま英語に置き換えることよりも、英語として自然で正しい文を書くことを第一に考えよう。

解答

- (1) Such vulgar language only degrades you.
- (2) You should visit the Niagara Falls yourself to really understand how magnificent it is.
- (3) Japanese are said to be workaholics. However, these days more and more people value their family more highly than work.
- (4) After hearing about the accident, she was so worried about her husband's safety that she didn't get a wink of sleep that night.

別解

- (1) Don't use such dirty language, or you'll just disgrace yourself.
- (2) You won't realize the grandeur of Niagara Falls until you go and see it yourself.
- (3) Japanese have been considered to be work addicts, but these days, the number of people who place family above work is increasing.
- (4) The news of the accident made her so anxious about her husband's safety that she spent a sleepless night.

解説

- (1) 「…すると」という日本語から if 節を思いつくかもしれないが、実際に相手が「汚い言葉」を使った場面での発言だと考えられるので、if 節を使うのはあまり適当とは言

えない。「そんな汚い言葉」を主語とする無生物構文にすると簡潔でよい。他には Don't ~, or ... という形にしてもよい。

○「そんな汚い言葉」この「言葉」は「言葉遣い」の意の language (不可算名詞) を使うのがよい。「汚い」は foul ; dirty ; vulgar など。

○「品位を落とす」disgrace ~ (～の恥となる ; ～の名を汚す) や degrade ~ (～の品位を下げる) といった動詞を使うとよい。「汚い言葉」を主語にするなら ~ disgrace(s) [degrade(s)] you となるし, you が主語なら you disgrace [degrade] yourself となる。他に他動詞 cheapen ~ (～の品位を落とす) も同じように使える。

(2) 全体の構成としては、「～を知るためには…しなければならない」と考えて you should ... to understand ~ のようにすることもできるし、「～は…するまでわからない」と考えて you won't understand ~ until ... のようにすることもできる。

○「ナイアガラの滝」(the) Niagara Falls と形は複数だが、普通は単数扱いにする。

○「～がどんなに壮大であるか」は名詞節にするなら how magnificent [grand ; great] (the) Niagara Falls is のようになる。「～の大きさ」と考えて the magnificence [grandeur ; greatness] of (the) Niagara Falls としてもよい。

○「自分で実際に行ってみる」go and [to] see it (for) yourself や visit it (for) yourself とする。

○「わからないよ」この「わかる」は「～を理解する [認識する]」ということ。understand ; appreciate ; realize などを用いればよい。

(3) 「日本人は～だと言われる」Japanese are said to be ~ や Japanese are considered to be ~ とする。他に Japanese have a bad reputation for being ~ (日本人は～であるという悪評がある) といった価値判断を織り交ぜた表現もできる。「これまで～であると考えられてきた」と考えて、時制を現在完了にしてもよい。

○「仕事の虫」を表す表現としては workaholic (仕事中毒の人) という名詞がよく使われる。work addict としても同意。

○「…する人が増えている」more and more [an increasing number of] people ... としてもよいし, the number of people who ... is increasing としてもよい。

○「BよりAを大事にする」place [put] A above [before] B (BよりAを優先する) ; value A more highly than B (BよりAを高く評価する) ; put more importance on A than on B (BよりAを重要視する) などいろいろな表現が考えられる。

(4) 全体の構文としては「彼女」を主語とする書き方と「事故の知らせ」を主語とする無生物主語構文の2通りが考えられる。いずれの場合も「～が気がかりで…できなかった」の部分は so ~ that ... の形を使うと書きやすいだろう。

○「～のことを聞いて」「彼女」を主語にして書くなら after hearing about ~ と前置詞句にするか、'原因・理由'の接続詞を用いて節で表す。

○「夫の安否が気がかりで」be worried [anxious] about her husband's safety とする。「その事故の知らせ」を主語にして書くなら the news of the accident made her anxious about ~ のようになる。

○「一晩中一睡もできなかった」she didn't [couldn't] sleep at all that night とすれ

ば簡単。他には she spent a sleepless night や she didn't [couldn't] get a wink of sleep that night といった表現もできる。get [have] a wink of sleep は、否定文で用いて「一睡もしない」の意味を表す慣用表現。

【4】

解答・解説

- (1) (a) become 「真相は決して彼らには知られない。」
○ become C 「Cの状態になる」
- (b) become 「そんなことについて話すのは私にはふさわしくない。」
○ become A to … 「(通例否定文で) …するのはAにふさわしくない」(文語)
- (c) become 「彼はどうなったのだろうか。」
○ become of ~ 「(通例 what, whatever を主語として) ~はどうなるのか」
- (d) becomes 「その新しいドレスは君によく似合っているよ。」
○ become A 「(衣服, 髪形など) がAに似合う」(文語)
形容詞の becoming (似合っている) は、口語でも用いる。
- (2) (a) Taken 「すりに間違われて、彼は憤慨した。」
○ take A for B 「AをBだと思う、思い込む」
過去分詞構文(理由)。
○ pickpocket 「すり」
- (b) taking 「この仕事を引き受けて下さいますか。」
○ take on ~ 「(仕事など) を引き受ける」
○ Would you mind …ing? 「…して下さいますか。」
cf. Would you mind my [me] …ing? 「(私が) …してもいいですか。」
- (c) taken 「夫の死後、彼女は1日中飲んだくれる癖がついた。」
○ take to ~ 「①~が好きになる ②(習慣として) ~をし始める」
to は前置詞。
- (d) took 「私は気質が父親に似ているとジェーンが言った。」
○ take after ~ 「~に似ている」
時制の一致により過去形にする。
○ disposition 「気質」
- (3) (a) latest 「彼は遅くとも10時までには戻ってくるだろう。」
○ at the latest 「遅くとも」
- (b) last 「私はそれだけはやりたくない。」
○ the last … 「可能性が最も少ない…」
- (c) latter 「2つのうちで初めのものより後のものの方がずっといい。」
○ the latter ⇔ the former (後者⇔前者)
- (d) later 「今朝はいつもより1時間遅く起きた。」
- (4) (a) better 「彼は10年前よりもずっと暮らし向きがよい。」
○ well off 「裕福な」

- (b) better 「君は喧嘩^{けんか}なんて馬鹿なことをすべきじゃない。」
 ○ know better than to … 「…するほど馬鹿でない」
- (c) best 「我々3人のうち彼がその仕事に最も適している。」
 全体集合が3人なので最上級にする。
 最上級が補語になる場合, the はつかないこともある。
- (d) well 「彼は学者だが, その上作家でもある。」
 ○ as well 「その上」

【5】

解答・解説

- (1) last, above
 「彼は決してそのようなことをする人ではないと私は確信している。」
 ○ the last … 「可能性が最も少ない…」
 ○ S is above …ing 「(人が) …するのを恥とする」
 ○ above 「超越」→ 「(高潔; 善良さなどで) ~を超越して; (人の理解など) を超えて」
- (2) to blame
 「その事故はあなたの責任ではない。」
 ○ be to blame for ~ 「~に責任がある」 (= be to be blamed for ~)
- (3) My favorite
 「私の最も好きな酒はウイスキーだ。」
 ○ favorite 「最も好きな」 (= best liked)
- (4) depends
 「スーツの価格は素材の質による。」
 ○ vary 「異なる」
 ○ according to ~ 「~に応じて」
 ○ depend on ~ 「~次第である」
- (5) What led
 「どういうわけでその結論に至ったのですか。」
 主語の位置に疑問詞が来る時は, 語順は平叙文と同じ。
 ○ lead A to ~ 「Aを~に導く」
- (6) But for
 「あなたが気前よく寄付をして下さらなかったのなら, 我々は仕事を続けることができなかつたでしょう。」
 過去の事実^{事実}に反する仮定法過去完了。
 ○ but for ~ 「~がなければ」
- (7) afford
 「もし十分に金があったのなら, ダブリンの友達に会いに行っただろう。」
 「十分な金がなかつたので, ダブリンの友達に会いに行かなかつた。」と解釈できる。
 「もし十分に金があったのなら」という過去の事実^{事実}に反する仮定法過去完了なので,

couldn't afford to (…する金銭的余裕がなかった) とする。to は to go to Dublin の代不定詞。